

b ネットショッピングでの詐欺

架空請求のほかにサイバー犯罪で多いものとして、ネットショッピングでの詐欺がある。

インターネット上で、安全に売買するためには、ショッピングサイトの信頼性を示すマークなどを調べて、信頼のできる業者かどうかを見分けることが重要である。マークのない業者や個人との売買で、トラブルを回避するためには、信頼できる第三者が取引を仲介する**エスクローサービス**を利用するとよい。



◆図12 ネットショッピングでの詐欺の例



公益社団法人日本通信販売協会会員

◆図13 信頼性を示すマークの例

公益社団法人日本通信販売協会(JADMA, ジャドマ)の審査を通り正会員となった事業者が、通信販売の広告媒体に使用できるマーク。

②エスクローサービスの事業者は購入者から代金を預かる。購入者に商品が届いたら、代金を販売者に送金する。

c フィッシング

金融機関や有名な会社を装って、「セキュリティシステムの更新」、「パスワード変更のお願い」などの件名のメールを送り、現在のウェブサイトそっくりにつくられた偽のウェブサイトへと誘導し、パスワードやクレジットカード番号などの情報を不正に入手する詐欺を**フィッシング**という。

金融機関に限らず、ユーザIDやパスワードの入力を求めるメールがきた場合は、その真偽を確認することが重要である。

③銀行などの金融機関から、クレジットカード番号やパスワードの入力を求めるメールがくることはない。

+ 語源

フィッシング

フィッシングは、偽のメールやサイトを使ってパスワードなどを取得することから、「釣り(fishing)」に由来し、手口が洗練されていることから、「洗練された(sophisticated)」のphが使われて「phishing」となった、とする説がある。



✉ 偽メール受信

差出人: ○× 銀行
件名: パスワード変更のお願い

いつも○× 銀行をご利用頂き、誠にありがとうございます。

<http://○×bank.co.jp>
からパスワード変更をお願いします。

W 偽のサイトに誘導

○× 銀行お客様登録画面

名前【必須】 ○○ 太郎
住所【必須】 東京都千代田区○○ ○-○-○
口座番号【必須】 03-1234-5678
クレジット番号【必須】 8765432123456789

個人情報流出!

◆図14 フィッシングの例

フィッシングによる被害は、クレジットカードの情報を盗まれて買い物をする、銀行口座のユーザIDやパスワードなどを盗まれて預金を引きだされる、盗まれた個人情報が売買されるなど、さまざまなものがある。



実習

ネット詐欺の手口と対策

架空請求、ネットショッピングでの詐欺、フィッシングの手口を、インターネットで調べてみよう。それらの被害にあわないためには、どのような点に気をつければよいかも調べ、対策をまとめてみよう。

実習

